

## 退職記念によせて

—不確実な時代に人間福祉学部が成すべきこと—

人間福祉学部長 大 和 三 重

2016年は世界を驚かす激動の一年であったといえる。個人的に最も驚いたのが11月の米国大統領選挙においてドナルド・トランプ氏が選ばれたことである。今回の選挙は、接戦といわれながらも政治家として経験豊かな民主党のヒラリー・クリントン氏が初の女性大統領として選ばれるだろうというのがおおかたの予想だったと思う。しかし、その予想を覆して時として差別発言もためらわない強烈な個性を発揮するトランプ氏を米国民の多くが支持したことには驚きを隠せない。この驚きは先の Brexit においても同じであった。主として移民を規制することを理由とした英国による EU 離脱への賛成投票は、衝撃の結果であった。今世界は現状への不満と将来への不安に苛まれているのではないか。私たちはこの不安定な予測のつかない時代をどのように生きていけばよいのか。その答えを探すのは容易なことではない。

翻って、私たちの所属する関西学院大学人間福祉学部もまた激動の時期を迎えようとしている。2008年の創設以来初めての定年退職者を5名もお送りする時が来てしまったのである。本誌はその5名の先生方の退職記念号である。五十音順にお名前を挙げると、才村純教授、中塘二三生教授、福居誠二教授、牧里毎治教授、室田保夫教授である。この5名の先生方は人間福祉学部開設以来、それぞれのご専門において学部の教育研究を牽引し、多大な功績を残されたことは誰もが知るところである。紙面に限りがあり、ここでお一人お一人のご功績を紹介することができないのが残念である。それらは本誌に掲載されているそれぞれのゆかりの方々をお願いすることとしたい。ただ、40名ほどの教員のなかから主力の5名の先生方が退職されることを考えると、これからの人間福祉学部にとって大きな変化であることは間違いない。まさに将来への不安に苛まれているのは筆者だけではないだろう。

このような時に大切なことは、原点に立ち戻ることだと考える。すなわち人間福祉学部の教育理念に立ち戻ってしっかりと足場を固めることが肝要であろう。目前の不安や、もっと広く世界に蔓延しつつある不安にも立ち向かう力を身に着けた学生を育てることが私たちの目指すところである。そのための3つのCを再度心に刻みたい。Compassion（人への思いやり）、Comprehensiveness（幅広い視野）、Competence（卓越した問題解決能力）の3つのCを兼ね備えた学生を育てることで自らを用いて他者のために働くことができる人材を輩出することが人間福祉学部の目標である。この不確実な時代にあって私たちにはいかに人々が幸福な社会を創ることができるかが問われている。人間福祉学部に残された私たちは、退職される先生方が残して下さった教育研究の成果を引き継ぎつつ、さらに時代の変化に対応した新しい人間福祉学部のかたちを模索し続けなければならない。

ここに改めて2017年3月をもって人間福祉学部を去られる5名の先生方に、9年間の学部でのお働きに感謝し、益々のご健勝をお祈りするとともに、今後も変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げる。